

③ 事前, 事後, 把持テストの結果

小問 番号	問題内容	正答率			有効度 指数	把持率
		事前	事後	把持		
1	角をはかることができる	94	85	91	-150	97
2	角(35°)をかくことができる	74	97	97	89	100
3	 ⑦	14	80	88	77	100
4	 ⑦	3	71	74	71	92
5	平行な直線がいえる	3	42	77	41	93
6	垂直な直線がいえる	11	65	74	61	91
7	点Aを通る平行線がかけられる	3	71	82	71	96
8	点Iを通る垂直な線がかけられる	8	68	82	66	96
9	台形がかけられる	25	77	77	69	89
10	平行四辺形がかけられる	28	60	77	44	100
11	ひし形がかけられる	8	65	65	63	86
12	台形の定義がいえる	3	77	74	76	85
13	平行四辺形の定義がいえる	48	85	85	76	90
14	平行四辺形の性質がわかる	14	71	80	72	96
15	ひし形の定義がいえる	11	82	77	81	86
16	対角線の長さが等しい図形がいえる	0	34	48	34	75
17	ひし形の性質がわかる	3	68	74	68	88

④ 算数の学習に対する意識調査

質問項目	50%
⑦ 算数は好きですか	
① 予習・復習をするようになりました	<input type="checkbox"/>
② 友だちに教えられるようになりました	<input type="checkbox"/>
③ 発表するのに自信がもてるようになりました	<input type="checkbox"/>

好き 嫌い
 上段(6月) 下段(12月)
 すき ふつう きらい

⑤ 結果の考察

ア. 事前, 事後, 把持テストの結果

- 小問1の「角を測る」の有効度指数が(-)になったのは、手だてのまずさのためではなく、やさしすぎての不注意によるものと思われる。
- 作図題である問9~11は授業で順序だてた思考で作図していたものが平行, 垂直に関する既習事項を十分に生かすことができなかつたために、有効度指数を低くしている。

イ. 算数の学習に対する意識調査

- 6月当初にくらべ、約半数の児童が、算数が好きと言えるまでになった。これも学習の場を理科室に移したり、グループ学習におけるマンツーマンの学習の結果と思う。
- また㊸ “教えられるようになった”が前回に比して3倍にも伸び、発表にも自信がもてるようになったのも、過程の見えるノート作りを心がけさせたためと考える。

(3) 結論

- ① ノートに自分の考えを書かせることが、児童を授業に集中させることになり、指導の面からもつまづきに対して早く手だてをうつことができた。
- ② 基礎的な図形概念を確実に身につけさせるために、操作活動に重点をおいて指導してきたので、理解の定着が図られた。
- ③ 学習プリントによって段階的に学習にとりくませたことは、学習の仕方が身につく、しかも思考過程が残り、意欲の向上につながった。

5. 反省と今後の課題

- ① 図形を考察したり、かいたりする時の観点として、辺や角があることを常に認識させる。
- ② 操作活動にあたっては、教具の正しい使い方を身につけさせる。
- ③ 個人差をよりの確に把握し、ひとりひとりに応じた補充の場をいかに確保するか研究を進めていきたい。